

# 第7回 GX実行会議

令和5年8月23日

中部電力株式会社  
代表取締役会長  
勝野 哲

## GX経済移行債による投資促進策

### ➤ 「投資促進策」の早期具体化・実行

米国の「インフレ削減法」、ドイツの「気候変革基金(案)」など、海外の動きが更に加速

- ◆ 呼び水、値差補填等だけでは、企業にとって投資回収の見通しが不十分

⇒ **企業の事業予見性が立つ施策**とする必要

・複数年度にわたる大規模な支援、生産比例型の投資減税など

- ◆ 「投資促進策」の判断のため、**分野別ロードマップの策定とフォローアップ**を確り行うことが必要

### ➤ 資金使途の対象

- ◆ “技術で勝つ” ⇒ **始めは「GX推進戦略」の要件を充たすものを幅広く対象に**

**時間と共に市場動向と進捗状況に応じて対象を重点化**

- ◆ “ビジネスで勝つ” ⇒ 日本に留まらず、**アジア・世界を含めたサプライチェーンの構築と市場創造**が必要

# 我が国のGX実現に向けて（2）

## GXとDXおよび電化の関係性

- ◆ GXは需要側では電化が中心（電化できない分野では脱炭素化された燃料を活用）
- ◆ 「電化 × デジタル化」によって、単なる排出量削減に留まらず、データプラットフォーム・データドリブン事業等により新たな価値・サービスを創出し、産業・社会構造の変革、「安心」「安全」「豊か」な暮らしに繋げることが可能となり、成長実現へ
- ◆ 一方で、AIやIoT等の拡大により電力需要が大幅に増加
  - ⇒ 将来の電力需給見通しを立て、革新的省エネ（低消費電力型デバイス・コンピュータ等）、エネルギーシステム全体の効率化（次世代グリッド、DR機能付きヒートポンプ・蓄電池等のDER活用）、供給力確保（再エネ・原子力、脱炭素化燃料）が必要

## GXリーグとカーボンプライシング

### ➤ GXリーグでの企業の自主的な取り組み

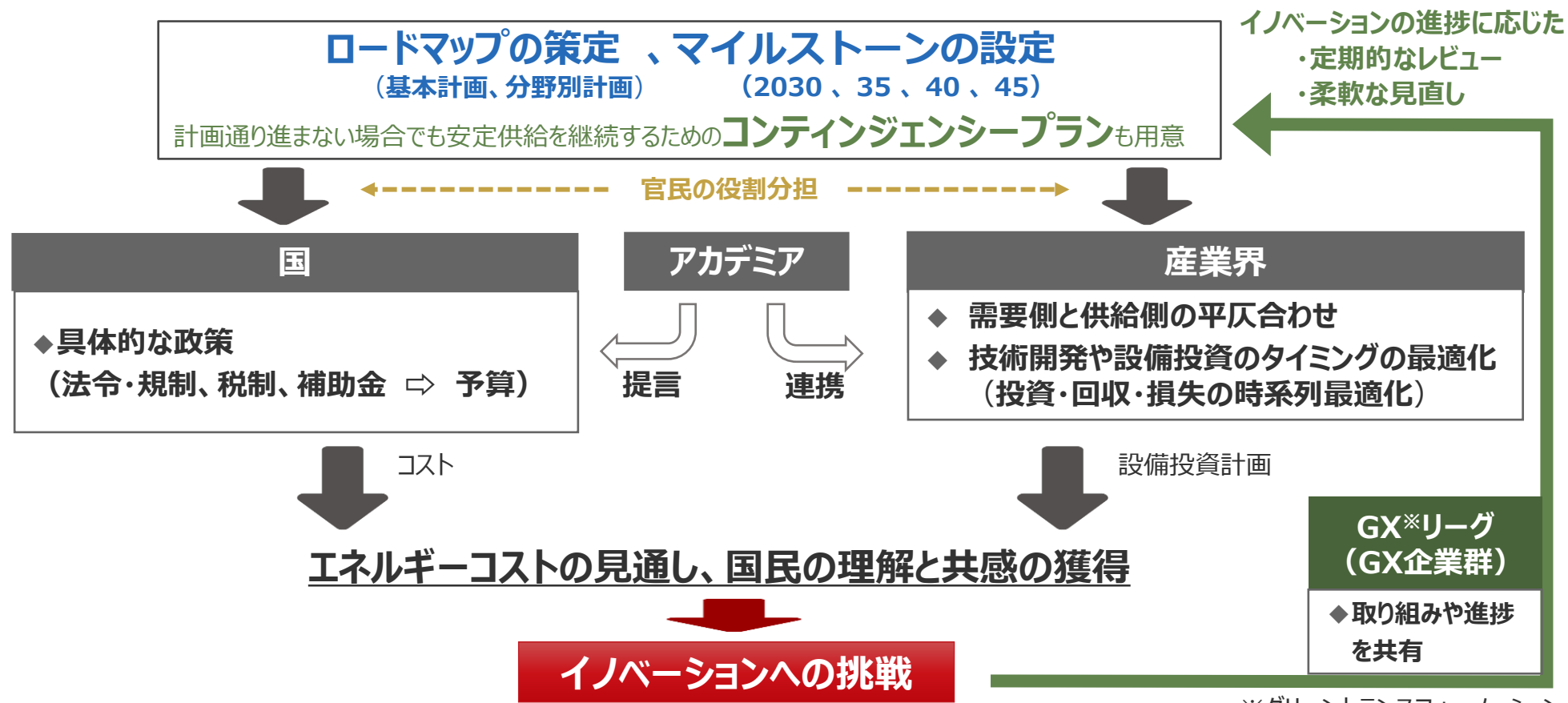
- ◆ プレッジ&レビューに基づく、スコープ3を含めた実効性のあるPDCAの確立、自主的なルール作り
  - ⇒ 新たな市場創造、将来の公平・透明な制度構築へ

### ➤ カーボンプライシング（化石燃料賦課金、排出量取引制度）

- ◆ 国民の理解・行動変容と、企業の投資インセンティブが働く、予見性・透明性の高い制度設計とする必要
  - ⇒ エネルギー間の公平性、炭素価格の中立性の確保

# カーボンニュートラルの実現に向けて

- 安定供給を確保できる実現性ある計画が必要（**ロードマップ・マイルストーン**、**コンティンジェンシープラン**）
  - ◎ 現実的なエネルギー供給 エネルギー安全保障
  - ◎ 国民の理解
  - ◎ 国益に資する 経済成長と両立



## カーボンニュートラル ⇨ 電気 × ICT = 新たな価値の創出

- **カーボンニュートラルの実現と経済成長を両立し、社会がより安全・安心に、そして新たな豊かさを享受できるよう変革していくことが重要。**
  - ◆ **経済発展に繋げるためには、いち早く国際規格・標準化することが必要。** ⇒ **経済安全保障**
  - ◆ **エネルギー・通信などの物理的インフラ、教育・医療などの制度インフラは、デジタル化により見える化が進む。それらのデータをプラットフォーム化し、産業・生活・社会の変容にどうつなげていくか、サイバーとフィジカルの融合によりどのような新たな価値・サービスを提供していくかが重要。** ⇒ **Value Provider**  
**電化～デジタル化～データプラットフォーム化**
- **エネルギーの分散化とモノの循環は、ともにデジタルが支える地産地消型社会という点で親和性が高い。**
  - ◆ **ICTを最大限活用し、エネルギーやモノの循環を高効率・高品質化させ、DXに向けた高省エネ化、レジリエンスも向上させていくことが重要。** ⇒ **分散型・循環型社会**
  - ◆ **新たな技術分野の開拓、制度整備、社会文化醸成を図ることに加え、それらをビジネスモデルとして成り立たせることが重要。** ⇒ **資源循環立国**

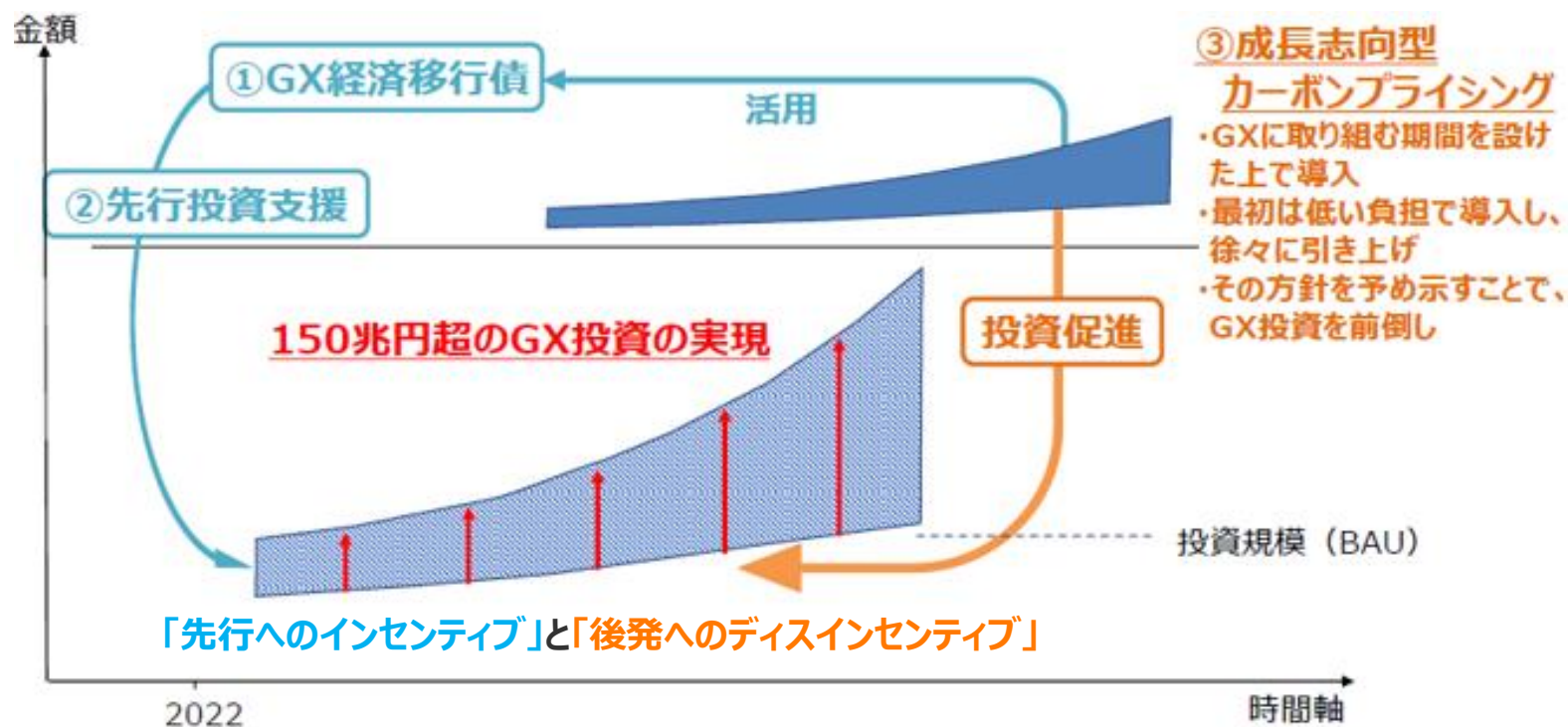
**単に、エネルギーを脱炭素化することに留まらず、  
「安全」「安心」「豊か」な暮らしに繋げることが肝要**

# GX経済移行債を活用した支援と成長志向型 カーボンプライシング

第6回GX実行会議  
弊社提出資料(再掲)

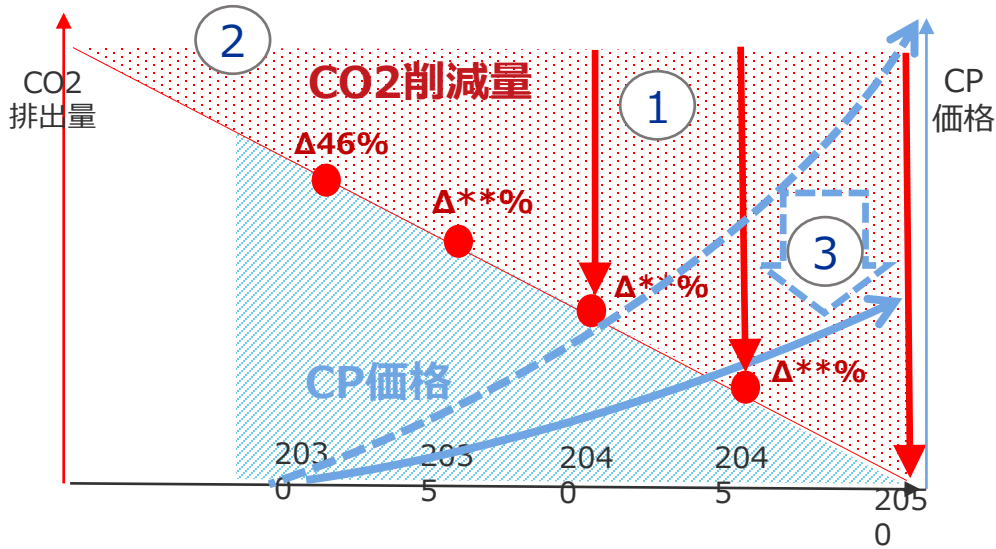


- カーボンニュートラルは長期に亘って経済社会・産業構造改革を促していくものであり、**規制**（カーボンプライシング）と**支援**（GX経済移行債を活用した先行投資支援）の併用を長期・一貫した措置とする必要。  
⇒「先行へのインセンティブ」と「後発へのディスインセンティブ」



出典：2022/10/26 第3回GX実行会議 GX実行推進担当大臣提出資料に弊社追記

# 成長志向型カーボンプライシング構想と財源



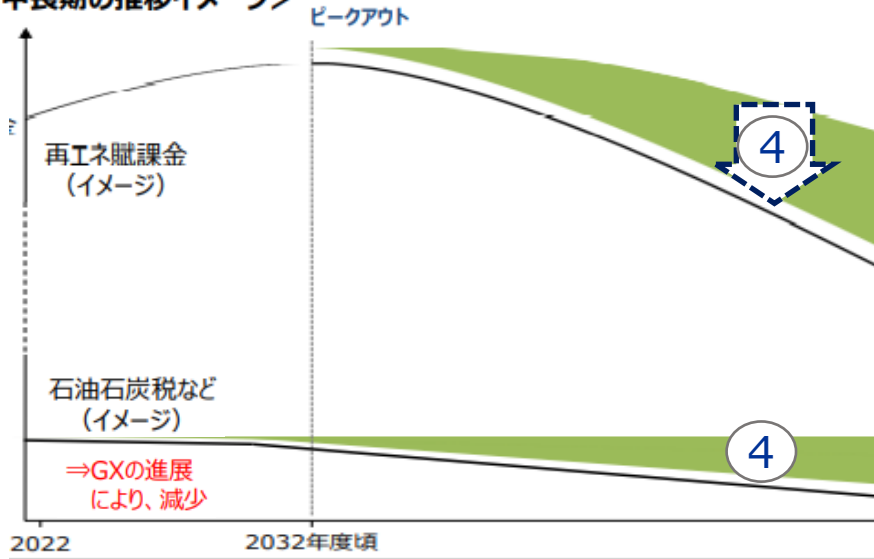
## ◆ 成長志向型CP構想にむけて

- ① 日本全体のロードマップの策定、CO2削減量の分野別・定量的なマイルストーンの設定  
⇒ 投資による排出量削減シナリオ
- ② 投資の用途  
⇒ 供給側だけでなく、使用側の脱炭素化も促進
- ③ CP価格の予見性の確保  
⇒ 削減量に応じた投資インセンティブ



**投資による経済成長とCO2排出削減の達成**

## <中長期の推移イメージ>



## ◆ 財源の考え方

- ④ 電力分野に偏らない負担  
⇒ 電化は脱炭素に必須、電力価格低減も課題  
⇒ 既存の税制や規制をスクラップ&ビルドし、エネルギー間の負担リバランスも必要



**公平・中立性の確保、国民理解と行動変容**

出典：2022/12/14 クリーンエネルギー戦略検討合同会合資料を一部加工